

令和元年度第1学年「地域社会研究」における評価について

1 地域社会研究の位置づけについて

地域を素材として、多様な課題を理解させるとともに、科学的探究の各段階の手法を身に付けさせながら、批判的・科学的思考力、主体的に研究に取り組む態度、プレゼンテーションする力や対話する力を中心としたコミュニケーション力を育成する。協働型学習プログラムの中核を担い、東日本大震災復興プログラムの一部を担う授業である。3年間課題研究を行う上での基礎知識・技術を身に付ける。

2 評価の観点について

【身に付けてもらいたい力】

多様な a 地域課題を理解させるとともに、科学的探究の a 各段階の手法を身に付けさせながら、
b 批判的・科学的思考力、c 主体的に研究に取り組み、課題を解決しようとする態度を育成する。

【評価の観点】

評価項目（観点）	具体的な活動
a 地域課題を理解している。 また研究手法を身に付けている (①知識・技能)	地域を起点とした課題に対して、他者や異文化への理解に基づきながら、協働的・科学的に検討し、未来に向かって行動しようとする。中学校での学習や予備調査・講義に基づいて地域課題を設定する。 (例)地域理解講座、課題図書レポート、フィールドワーク また先行研究について新聞や書籍、講演等から適切な情報を選びだしたり、講演を聞いたり、文献を読んだりして、基礎的な知識を得る。アドバイザーやTAによる指導を活用しながら適切な方法で研究を行い、丁寧に記録する。 (例)テクニカル講座、研究計画書提出、論文・ポスター
b 批判的・科学的思考力を 身に付けている (② 思考・判断・表現)	地域課題について、教科横断的に知識を使い、科学的に研究する。未解決な課題を明確化する。対話を通じて批判的にテーマについて考え、研究をより良いものとするよう努力する。研究活動を通じて、論理的に研究を深める力を養う。 (例)課題図書レポート、授業中の生徒間・教員・外部指導者との議論
c 主体的に解決しようとする 態度を身に付けている (③主体的に学習に取り組む態度)	社会や地域が抱える諸課題について関心を持ち、主体的に解決しようとする態度を養う。設定したテーマに関して探究的に取り組む。ポスターセッションやオーラルセッションなどのプレゼンテーションの技法を理解し、相手に適切に伝えるとともに、質疑に対し適切に対応する力を身に付ける。また聞き手として、種々の疑問に対して自ら発問し、議論していく積極的な姿勢を養う。 (例)中間発表会・学年発表会、日々のディスカッション

3 評価の対象・算出について

課題図書・フィールドワーク・研究活動・発表会等について、1回ごとに評価の対象とする。具体的な点数については、「5 ルーブリック表」に挙げる。4期考査の成績表に合計点を示し、5～1の評定をつける（他教科同様の分布）。

評定	5	4	3	2	1
合計点	100～80	79～65	64～45	44～40	39～0

4 評価計画

月	学習テーマ	学習内容・スキル	評価の対象	評点
5月	ガイダンス	一年間の流れを知る	評価揭示	
	地域理解講座	地域の現状を改めて知り、興味関心がわいたキーワードを見つける	ワークシート	
6月	テクニカル講座 ・レポート文章講座 ・IT活用講座 ・図書情報講座	思考方法や説得力のある意見文の書き方、文献検索方法や情報の信頼度の違、書籍分類や探し方・校内外の蔵書検索方法	ワークシート	② 3点
	先行研究・課題テーマの講演会	課題例を生徒に与え、研究テーマの決定に向けて具体的なイメージを持たせる。		
7月	研究テーマ決定 事前調査	研究テーマの背景や現状を本や新聞、インターネットを用いて調べる。適切な情報を選び出し、論点にする内容を明確化させる。		
夏 休 み	研究領域に関する課題図書を読む	課題図書の要点を、研究テーマとの接点を探りながらキーワードを抜き出し、まとめる。	レポート	③ 3点
			レポート	④ 4点
8月	研究計画書提出	研究内容や調査方法をまとめて提出	研究計画書	⑤ 3点
9月	フィールドワーク事前調べ	FWの訪問先や具体的な質問事項についてまとめる。		
10月	フィールドワーク①	市内の企業や商店、各種施設、復興・復旧の現場を班ごとに訪問。	事前事後レポート	⑥ 4点
10月 11月	研究活動α (10時間)	研究活動 	教員・生徒間で評価を議論・自己評価	
	創造類型発表会			⑦ 3点
	中間発表会	PCでスライドを作成し発表	質問内容・聞く姿勢 質問用紙	⑧ 3点 ⑨ 3点
12月	フィールドワーク②	市内での実地調査や、東北大学・岩手大学に行き専門の研究者からアドバイスを受ける	事前事後レポート	⑩ 4点
12月 1月	研究活動β (9時間)	中間発表会での反省点やFWで得た知見を生かし、再び  研究・調査を行う	教員・生徒間で評価を議論・自己評価 ※最後の授業に最終	⑪ 35点

			評点	
1月	学年発表会	ポスターセッションによる発表会	内容・発表態度	⑫ 20点
			質問内容・聞く姿勢	⑬ 3点
			感想用紙	⑭ 3点
			大学教授の評価（H 30年度は調整点で 全員5点加点）	⑮ 5点
2月	まとめ	情報の整理・論文作成	社研ファイル	⑯ 4点
3月	総合学習発表会	学年を超えて1年間に研究活動を行ってきたものの全体発表会。	(意識アンケート)	
不定期	各種発表会への参加	海洋教育サミット、みやぎ高校生フォーラム、SSH・SGH 指定校発表会、地方創生イノベーションスクール等に参加	発表会での発表態度や参加の様子	⑰ 5点 (加点)

5 ルーブリック表（評価の観点と予想される行動例の点数）

(1) 各イベントでの評点

	5	4	3	2
①地域理解講座ワークシート(a)			講話内のキーワードから新たなキーワードを9個以上挙げ、ワークシートを完成させている。	講話内のキーワードから新たなキーワードを5個以上挙げ、ワークシートを完成させている。
②テクニカル講座ワークシート(a)			なぜその記事を選んだか自分の言葉でしっかり説明できる。	なぜその記事を選んだか自分の言葉で説明できる。
③課題図書レポート(a)			適切なキーワード等を8個以上挙げ、課題図書の内容を十分に理解し、説明できる。	適切なキーワード等を5個以上挙げ、課題図書の内容を理解している。
④課題図書レポート(b) ※レポートから評価		課題図書の内容を十分に理解し、新たな課題の指摘や解決策の提案を具体的に述べている。	課題図書の内容を十分に理解し、新たな課題の指摘や解決策の提案を具体的に述べている。	課題図書の内容をある程度理解し、新たな課題の指摘や解決策の提案を具体的に述べている。
③研究計画書(c)			論題や仮説が具体的に明確にあり、適切な研究計画を立てることができる。	論題や仮説が一部不明確なところがあるが、研究を進めることができる。
④フィールドワーク(a) ※計画書・報告書から評価		事前計画や事後の振り返りをしっかりと行い、新たな視点を持ったり、疑問を解決したりすることができる。	一部が不十分であるが事前計画や事後の振り返りをしっかりと行い、新たな視点を持ったり、疑問を解決したりすることができる。	事前計画または事後の振り返りが不十分であったため、新たな視点を取り入れたり、疑問を解決したりすることができない。
⑤発表会での感想用紙(b)			他者の発表から課題や問題を見つけ論理的に説明でき、自分の研究を振り返ることができる。	他者の発表から課題や問題を見つけ、自分の研究を振り返るきっかけができた。

⑥発表会での 質問内容・聞く 姿勢(c)			積極的に質問や発言 を行うことができ、内 容も研究を理解した ものである。	質問や発言を行うこ とができ、内容も研究 を理解したものであ る。
⑦論文内容 (a,b)	読めばすべてがわか る内容・構成になって おり、引用等も明らか である。	読めば大体がわかる 内容・構成になってお り、引用等も明らかで ある。	読めば何となくわか る内容・構成になって おり、引用等も明らか である。	読めば何となくわか る内容・構成になって いるが、引用等が明ら かではない。
⑧社研ファイ ル(a)		適切な資料を整理し 保管され、他者が見て も内容が伝わる。	一部の資料が足りな いものの整理され、他 者が見ても内容が伝 わる。	適切な資料を整理し 保管されているが、他 者が見ても内容が伝 わりにくい。
⑨校外発表会 (c) ※参加の様子 から評価	自分の研究内容につ いて自信を持って 堂々と発表し、質疑 応答にもしっかりと 対応することができる。	自分の研究内容につ いてややたどたどし い発表ではあるが、質 疑応答にはしっかりと 対応することができる。	自分の研究内容につ いて自信を持って 堂々と発表するが、質 疑応答にはあまり対 応することができな い。	自分の研究内容につ いてたどたどしい発 表で、質疑応答に対 応することができな い。
	意欲的に発言や質問 をすることができ、外 国人とも英語で意思 疎通をすることがで きる。	意欲的に発言や質問 をすることができ、積 極的に参加している。	発言や質問を自らす ることができる。	周りの協力を得なが らではあるが、発言 や質問をすることが できる。

(2) 研究活動 α ・ β における自己評価と教員による評価

観点	5	4	3	2
課題設定(a)	地域に関係のあるテ ーマを課題とし、問題 の背景を総合的な視 点で捉え、論点が明確 である。	地域に関係のあるテ ーマを課題とし、問題 の背景を部分的にし か捉えていないが、論 点が明確である。	地域に関係のないテ ーマを課題とし、問題 の背景を部分的にし か捉えていないが、論 点が明確である。	地域に関係のないテ ーマを課題とし、問題 の背景を調べておら ず、論点が不明確であ る。
情報の内容 (a,b)	アンケートやインタ ビュー、フィールドワ ーク等から得られた オリジナルのデータ も適切に処理・加工し て使っている。	アンケートやインタ ビュー、フィールドワ ーク等から得られた オリジナルのデータ を使っているが、処 理・加工に不備が見 られる。	他人が作成したデー タを適切に選び、加工 している。	他人が作成したデー タを加工しているが、 適切なデータではな い。
情報収集(a)	3種類以上の情報源 から5つ以上の情報 や資料を集め、引用部 分と班の意見を明確 にわけて記載してい る。	1・2種類の情報源 から5つ以上の情報 や資料を集め、引用部 分と班の意見を明確 にわけて記載してい る。	複数の情報源から2 ～4つの情報や資料 を集め、引用部分と班 の意見が明確にわけ て記載している。	複数の情報や資料を 集めてはいるが、引用 部分と班の意見が明 確に分けて記載して いない。
論の構成(a,b)	主張を裏付ける客観 的で有効な根拠が2 つ以上あり、反対意見 も踏まえ反論できる 材料をそろえ、とても しっかりしている。	主張を裏付ける客観 的で有効な根拠が2 つ以上あり、自分の立 場からの主張はしっ かりしている。	主張を裏付ける客観 的で有効な根拠が1 つあり、自分の立場 からの主張はしっ かりしている。	主張を裏付ける根拠 や証拠を挙げている が、客観性や信ぴよ う性が低く有効とは 言いがたい。
発表態度(c)	発表では、声を通るよ うに大きくはっきり と発言し、聞く人が理 解できるようにテン ポや強弱、身振りなど に工夫があり、効果的 である。	発表では、声を通るよ うに大きくはっきり と発言し、聞く人が理 解できるようにテン ポや強弱、身振りなど に工夫のあとがみ られる。	発表では、一部聞き 取れない部分はあるが、 聞く人が理解でき るようにテンポや強弱、 身振りなどに工夫の あとがみられる。	発表では、一部聞き 取れない部分があり、 聞く人が理解でき るような工夫が必要 である。

質疑応答(c)	発言者の方に視線を向け、質問内容や疑問点などを正確に理解し、必要十分で説得力ある回答をしている。	発言者の方に視線を向け、質問内容や疑問点などをある程度理解し、つまりながら必要な回答をしている。	発言者の方に視線を向け、質問内容や疑問点などをある程度理解しているが、言葉が足りず十分ではない。	発言者の方に視線を向けられず、質問や疑問などある程度理解しているが、言葉が足りず十分ではない。
発表資料(c)	スライド枚数やポスターの構成が適当であり、文字の大きさや文字数、配置、配色にも気を配っており、セリフとマッチし聞き手の理解を大いに助けている。	スライド枚数やポスターの構成が適当で、セリフとマッチし聞き手の理解を助けるが、見えにくい文字やわかりにくい図表が一部にある。	スライド枚数やポスターの構成が適当であるが、セリフとマッチしていないスライドや全然触れられていない記載内容がある。	スライド枚数やポスターの構成が不十分で、聞き手の理解をあまり助けていない。

(3) 学年発表会での全体評価（複数の教員による総括的評価）

観点	5	4	3	2
a 地域課題の理解している	地域に関係するテーマを課題にした研究で、その分野に関する地域の実情を十分に理解し、他分野の内容も踏まえながら、課題解決に取り組んでいる。	地域に関係するテーマを課題にした研究で、その分野に関する地域の実情を十分に理解し、課題解決に取り組んでいる。	地域との関連が薄いテーマを課題にした研究ではあるが、その分野に関する地域の実情を十分に理解し、課題解決に取り組んでいる。	地域との関連が薄いテーマを課題にした研究で、その分野に関する地域理解が十分ではないまま課題解決に取り組んでいる。
a 研究手法を身に付けてけている	それぞれの情報源の特徴や統計処理を理解した上で、適切な調査研究方法を選び工夫しながら実行している。	それぞれの情報源の特徴や統計処理を理解した上で、適切な調査研究方法を選んで実行している。	それぞれの情報源の特徴や統計処理をある程度理解した上で、調査研究しているが、より適切な方法が考えられる。	それぞれの情報源の特徴や統計処理を理解していないため、調査研究方法が不適切で、より適切な方法が考えられる。
b 批判的・科学的思考力を身に付けてけている	主張を裏付ける客観的な根拠が2つ以上示されており、反対の立場の意見も考えられている。	主張を裏付ける客観的な根拠が2つ以上示されており、自分の立場の意見はしっかりしている。	主張を裏付ける客観的な根拠が1つ示されているが、全体として見ると一貫性はあるものの弱さがみられる。	主張を裏付ける根拠が不適切であったり、信ぴょう性が低かったりするため、主張が弱く一貫性に欠ける。
c コミュニケーション力を身に付けてけている	聞く人が理解しやすいような工夫が随所に見られ、スムーズに理解できる。質疑応答や他の班の研究見学において積極的に発言して参加している。	聞く人が理解しやすいような工夫が一部見られる。質疑応答や他の班の研究見学において発言をし、参加しようとする姿勢がみられる。	ぎこちない部分はあるが、相手に伝えようと努力している。質疑応答や他の班の研究見学において発言は無いものの、メモを取るなど参加の意欲がみられる。	声が小さく聞き取れない。質疑応答や他の班の研究見学において発表者の方を向かなかったり、メモを取る様子がみらなかったりと、参加の意欲が感じられない。

6 欠席や出席停止の取り扱い

定期考査に準じて、公認欠席・出席停止以外の理由により休んだ場合は、評価の点数に0.8を乗じたものを評点とする。

(1) フィールドワーク

フィールドワークの内容に関連のある課題図書や映像資料を選定し、それに関するレポート提出を課し評価する。

(2) 中間・学年発表会

研究内容については発表の機会を別の日に設け、評価する。また、「発表会での感想用紙」や「発表会での質問内容・聞く姿勢」については、当日の様子を撮影したものを視聴するか、いくつかの班に再度発表してもらう中で評価する。